〔 研究区分： 地域課題解決研究 〕

研究テーマ：	町並み保存地区のまちづくりに対する住民意向から今後の課題とその解決方策に関する研究 ～呉市御手洗重要伝統的建造物群保存地区を事例として～	
研究代表者：	保健福祉学部 人間福祉学科 講師・吉田倫子	連絡先： nyoshida@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者：	兵庫県立大学 環境人間学部 准教授・宇高雄志 広島大学 助教・上村信行	

【研究概要】
高齢化，過疎化，人口減少，空き家化の課題を持つ御手洗重要伝統的建造物群保存地区において，持続可能なまちづくりを検討するために，町並み保存の成果と現状・今後の課題について住民アンケート調査を通して整理した。単年度では「空き家増加に対して募る住民の不安」「伝建家屋に対する不満と災害に対する不安」「町並み保存に影響を与える高齢化」等が，時系列では「過疎・高齢化による慢性的な課題」「観光や環境整備に対しては一定の成果を上げ，次なる課題に取り組む時期」等が挙げられた。課題に応える持続可能な町並み保存システムの構築が必要である。

【研究内容・成果】

１．研究の目的と方法

御手洗地区は平成 6 年に国の選定を受けて重要伝統的建造物群保存地区となり，町並みは整えられつつある。近年，豊島との架橋（呉市と陸でつながる），自治体合併に伴い，観光施策にも力を入れ，広い範囲から多くの観光客が訪れている。一方で御手洗地区のある呉市豊町の人口は年々減少し，平成 22 年国勢調査では人口 2，261 人(市全体 239,973 人)，高齢化率は 58.6%(市全体 29.3%)に上っている。そのため，空き家の増加，保存活動の担い手の不足が進み，一刻も早い持続可能な重伝建地区のまちづくり方策が待たれている。そこで，本研究では【目的①】地区の現状や建造物の保存状況を把握する。【目的②】御手洗地区の住民を対象に町並み保存や現在の居住環境，将来の意向についてアンケート調査を実施し，住民の意向を明らかにする。そして，【目的③】過去 2 回の調査と比較検討することで，住民意向の変化と今後の課題を明らかにする。最後に【目的④】呉市と協議を行い，今後の課題に対する解決方策を検討する。方法として，【調査①】関係機関への聞き取り及び現状把握調査を実施する。【調査②】住民に対するアンケート調査を実施する。【調査③】調査結果をもとに，過去 2 回の調査と比較分析を行う。【調査④】呉市と協議し，専門家によるアドバイスを得て，持続可能な施策を検討する。調査では，関係機関の活動情報や個人情報の取り扱いには厳重な注意を行い，過程においては呉市や地元自治会等と緊密に連絡を取りながら社会的コンセンサスを重視した調査活動を行った。

２．研究結果と考察

２－１　調査の概要

アンケート調査は，住民協力を得て，配布数 117 票，有効回答数 77 票，有効回答率 65.8%となった。本調査では，既往の 1997 年調査，2007 年調査を基に住民の意向を把握し，町並み保存に対する年齢や家屋の指定状況などの属性別の分析し，さらに時系列で住民意識の変化を見た。そのため，1997 年調査，2007 年調査と同一の設問・選択肢（一部改編）をとった。ただし，人口や世帯数の減少，高齢化により，1997 年調査（有効回答数 134 票，有効回答率 71.7%），2007 年調査（有効回答数 96 票，有効回答率 75.0%）よりも有効回答率が下がっている。

２－２　単年度調査の結果と考察

今回の町並み保存意識アンケートの回答分析により，以下に示す４つの結果が得られた。

①高齢化の進行とそれに対して募る住民の不安

アンケート回答者の年齢構成を見ると，6 割以上は「65 歳以上」の高齢者であり，3 割が「女性」であることから、高齢者女性のひとり暮らしであると予想される。また，居住環境の問題点として

「若者の地区内からの流出」「高齢化による生活の維持」，地区環境の問題点については「歩行者の安全性」が票を集めた。保存団体への期待も「高齢の住民の見守り」が 5 割おり，町並み保存よりも高齢化に対する不安が大きいことがわかる。

②空き家増加に対する住民の不安

保存団体の活動への期待では「空き家の管理や活用の支援」，御手洗重伝建地区における町並み保存の問題点では「空き家増加による地区内の活気の低下」が最も高い割合を示した。増加する空き家に対する住民の不安の声があがった。また，後継者の問題も御手洗重伝建地区では深刻である。現在居住する家屋に後継者が「いる」と答えた人は全体の 1 割にも満たず，残りは「いない」「わからない」「無回答」であった。空き家自体の現状を把握し，その増加を防止する方策が必要である。

③伝建家屋に対する不満と災害に対する不安

居住家屋の不満点では「冬の寒さ」「夏の暑さ」「日当たり」など室内環境に対する不満が多かった。これは，古い家屋特有，そして古い町並みならではの問題である。また，御手洗重伝建地区内の現在の問題としては「地震，火災，台風等の災害に対する態勢や整備」「空き家の増加による地区内の活気の低下」があった。御手洗重伝建地区においても，海岸沿いの避難場所や災害弱者の避難方法など災害時の避難には不安が残る。南海トラフ地震に備えた防災対策が望まれる。

④町並み保存に影響を与える高齢化

「男性」，「64 歳以下」，「自営業・農業」，家屋が「指定されている」人において町並み保存意識が高くなる傾向が見られた。若い世代で町並み保存意識が高いことは評価できる。しかし，女性や高齢者らの住民の半数を占める人々が町並み保存を進めつつも，他の課題に取り組むことを望んでおり，町並み保存と一体的に高齢化や過疎化などの課題に取り組む必要がある。

２－３　時系列での調査の結果と考察

①過疎・高齢化による慢性的な課題

公共施設の整備や修理・修景事業による外観整備（特に屋根）などハード面が改善されたことにより，不満が減少している。一方で，住民の高齢化に伴い，生活面での不安に関して歩行者の安全性や防災設備が，観光客の増加に伴い，防犯などが問題として挙げられた。人口が減少していることから，若者の地区外への流出や後継者問題，空き家の増加は 16 年前から問題視されていたが，その具体的な対策は取られておらず慢性的な問題として捉えられている。

②観光や環境整備に対しては一定の成果を上げ，次なる課題に取り組む時期

地区整備と町並み保存に対する意向では，他の産業より優先して町並み保存を行っていくことは次第に増加傾向にあり，住民が一定のお金を払うや観光のための施設の増設については，減少傾向にあった。また，伝建地区の制度に対しては 1997 年調査と 2013 年調査を比較すると，「妥当である」との回答がいずれの項目においても増加傾向にある。修理・修景事業の件数が増加していることの成果である。伝建地区制度の理解は深まり，環境が整っている現在では次なる課題に取り組む時期に来ている。

③後継者がおらず，保存に対して消極的になっている

16 年間を通して保存活動へは積極的な姿勢を示すものの，過疎化や産業の衰退，高齢化に伴う問題を抱えているため，2007 年調査に一時盛り上がりを見せたものの若干その勢いが和らいできている。特に後継者のいない回答者の町並み保存への意欲が低下傾向にあると言える。今後も若者の流出と高齢化の進行が予想されるが，家屋を引き継ぎ保存していく方法を検討する必要がある。

３．今後に向けて検討すべき内容について

●重要伝統的建造物群保存地区選定後 20 年でこれまでの町並み保存の成果を今後に活かす

●次世代育成や人材育成など，保存活動の担い手づくり

●災害に対する防災設備や高齢者の見守りなど住民の安心・安全な生活のための環境整備を充実させる

●地域の課題に対応した持続可能な町並み保存システムの構築

〔 研究区分： 地域課題解決研究 〕